

平成30年2月1日発行

# 鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川

TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>

## 祝・河内川ダム本体完成

### 河内川ダム本体コンクリート打設完了式

と き：平成29年12月14日(木)

と ころ：河内川ダム建設現場(ダム堤体部)

主 催：福井県嶺南振興局 河内川ダム建設事務所

西松建設・竹中土木・キハラコーポレーション・長崎組特定建設工事共同企業体



写真中央：本体完成の河内川ダム堤体  
右：着工前(平成25年9月1日)  
左：くす玉開放(平成29年12月14日)  
写真提供：河内川ダムJV・宮川区長

熊川宿から南西へ1.2キロの所で壮大な河内川ダム建設が進んでいます。

県営河内川ダムは、一級河川北川水系河内川に①洪水調節、②流水の正常な機能の維持、③特定かんがい用水の供給、④水道用水の供給、⑤工業用水の供給を目的に建設されている重力式コンクリートダムです。

昭和58年4月の実施計画調査事業採択、昭和62年4月の建設事業採択、平成6年3月の付替道路工着手手、平成24年12月のダム本体工事を経て、平成26年10月の堤体工コンクリート初打設から今日に至っています。事業全体の進捗率は79.9%で、平成31年度完成を目指しています。

12月14日、福井県や地元関係者が出席し、河内川ダムの本体コンクリート打設完了を祝う式典が行われました。河内川ダム建設事務所長 高野政志様の挨拶に始まり、熊川区長宮川氏の祝辞、来賓の紹介があり、熊川小学校児童による記念石埋納と打設完了の儀が執り行われました。

続いて、万歳三唱、くす玉開放が行われ、めでたく本体コンクリート打設完了をお祝いしました。

河内川ダムは今後、試験湛水が行われ、周辺環境の整備へと進んでいきます。

(2ページに関連記事)

#### 目次

祝・河内川ダム本体完成	1
寄稿文・各事業 現況報告	2
全国町並みゼミ 研修報告	3
熊川いづく時代村 実施報告	4
活動報告・研修報告①	5
活動報告・研修報告②	6

## 河内川ダム回顧

熊川区ダム対策特別委員会

委員長 檜鼻 昭男

河内川ダムは、若狭町が中核工業団地と共に二大プロジェクト事業として36年前に取組み、既に工業団地は稼働する中、昨年12月にダム本体のコンクリート打設完了の式典が行われ、平成31年の完成を目指し工事が進められています。振り返って見ますと、昭和58年に調査事業採択から始まり、地元の同意を経て事業が開始されました。その後いよいよ建設に移る時



本体コンクリート打設完了式にて記念石埋納(平成29年12月14日)

には毎週のように委員会が開かれ、将来の地域づくりの諸問題のなか、失われてゆく犠牲、未来への利便性との比較的価値観について熱く議論した事を思い出します。

当時の委員会は、区の役員全員と、各団体長など40名程で組織され、片山卯三郎委員長のもと、町担当者として最初から担当されていきました。竹原善信さんの出席で、夜遅くまで話し合いがされました。現在両氏はすでに他界されとも残念でなりません。河内川ダムを語る時、この方々を思い出さずにはいられません。大変苦労された事に心より敬意を申し上げます。

ダム建設事業の36年、今日までに町の首長は6名代わられています。また県ダム事務所においては、現在の高野所長は14代目となっています。変わらないのは住民ですが、地区においては、平成7年に河内集落の移転とせせらぎ団地の入村式が行われました。

熊川区においては、熊川宿まちづくり委員会が発足し、ダム対とともに色々な事業に取り組んで来ました。二年に一度のダムと町並み研修を始め、ハード面の事業を進めて来ました。

河内集落までの道路建設、橋

の建設が進み、いよいよ本体着工と言われる時に、政治の流れが大きく変わり、ダム事業を中心とする大型公共事業について、事業凍結、そして見直しとなり、本体着工寸前でストップがかけられました。

森下町政のもと、県党本部や国交省、財務省、国会議員の先生方へ要望活動をした事もあり、約2年半後、政界の動きにより、本体着工となったわけです。

5年前に本体着工の挨拶にいられた奥田所長と会ったのが昨日のように感じています。以来今日まで、災害やイベント、各事業において大変なお世話になり感謝々々の日々です。とりわけ重伝建の全国大会、そして選定20周年記念事業には快く協賛いただき、盛況のうちに終える事が出来、全国からも注目されるようになりました。

ダム完成まであと一年余りですが、気をゆるめる事なく、安全第一で事業を進めていただき、ますようお願いいたします。

ダム建設事業に終りはありません。河内川ダムがまちづくりと地域振興の起爆剤となるよう応援して行きたいと思えます。

## 各事業 現況報告

平成29年度地方創生に向けてがんばる地域応援事業

空き家活用と観光産業の創出、旅行者や大学生との交流事業により地域の魅力を再発見することを目的として進めています。

12月6日、

若狭町空き家対策協議会に宮本会長が出席。

12月8日、森下

町長始め宮本会長ら4名が県庁を訪問し事業支援をお願いしました。第3次熊川まちづくりマスタープラン策定

10月4日、策定会議が始まり、岡本宏一委員長・小林庄一副委員長を選任、要項やスケジュールを確認後、西村幸夫先生より講演をいただき、世界遺産の五箇山や白川郷の例を参考に熊川らしさを出すようご指導がありました。

10月30日には第2回、11月21日には八重樫教授・宮崎先生をお招きし、第3回が開かれました。

葭屋街道シェアオフィス&スペース

12月7日、準備

工事着工に伴い、安全を祈願する祓い清めが山崎宮司により行われました。



## 全国町並みゼミ名古屋有松大会

と き：平成29年11月17日(金)～18日(土)

と ころ：愛知県名古屋市・有松

記念すべき第40回大会が、「町並みはわたしが守る〜みんなのものから40年〜」をテーマに名古屋市と有松で盛大に開催されました。

北信越ブロック理事を務める宮本会長は16日から3泊4日、住民3名は17日から1泊2日、町職員2名も出席しました。

初日は、名古屋国際会議場レセプションホールで開会セレモニー、全体会が行われました。

基調講演では、東海旅客鉄道(株)相談役の須田氏から、日本の観光をテーマに「観光はまち



有松の町並み視察

づくりによって活かされ地域文化で高まる」と話されました。

開催地からの報告では、有松ならびに名古屋市の歴史やまちづくりについて報告がありました。

なかでも、名古屋市の魅力が他に比べて低い事などから、歴史的建造物の活用をより重視した支援として、クラ

ウドファンディングで集まった資金と同額を補助するなど、新たな取り組みについて紹介がありました。

各地からの報告は、全国12団体(足助・小諸・京町家・鞆・盛岡・八女・たけの・城崎温泉・奈良・松阪・倉敷・松代)から活動報告がありました。

続いて北陸甲信越ブロック会議が開かれ、熊川宿からは5名が出席しました。西村先生、石山さん、妻籠宿の皆様を始め、参加いただいた皆様と意見交換を行いました。

白鳥ホールで開かれた歓迎交流会では、信長武者隊のお出迎えでスタート、河村名古屋市長の超ユニークな歓迎挨拶で会場は大いに湧きました。また、全国各地の方々と交流、情報交換をしました。

2日目は7つの分科会に分かれて、午前中は視察、午後は分科会



北陸甲信越ブロック会議

が開催されました。熊川宿からは、第1と第2に分かれて参加しました。

有松に受け継がれる伝統、町並み、有松絞り、山車について詳しく案内いただきました。

有松絞りが伝承され、70余名の方が技術習得に励んでおられると聞き驚きました。

第1分科会は、「これらの町並み保存」をテーマに、町並み保存連盟の高橋氏、西村幸夫先生ご出席のもと、有松まちづくりの会の成田氏から全般の紹介がありました。

続いて、八女福島の北島氏から空き家対策を中心とした取り組み紹介、たいとう

歴史都市研究会の権原氏から谷中界隈の歴史を活かすまちづくりの話題が提供されました。

西村先生からは、町並み保存に関する最新の動向について「文化財の活用が目玉のひとつになって



第1分科会

いく」とのお話がありました。

第2分科会は、有松絞りを活かした産業振興を考える「伝統産業の継承と町並み」をテーマに、京都大学増井教授、有松まちづくりの会の竹田氏、倉敷町家トラストの中村氏、テキスタイル会社の若林氏による事例発表が行われ、新しい産業への思いが語られました。

この後、パネルディスカッション、総括と続きですが、熊川宿メンバー3人と第1分科会出席の2人はここで退出し

帰路につきました。

宮本会長が参加した第1分科会交流会では、各地の情報やまちづくりの苦労話など有意義な情報交換ができました。

3日目は、第1〜第7分科会報告の全体会が開かれ、宮本哲男氏が司会を務めました。

今年度の峯山富美賞は、台湾歴史資源経理学会秘書長 丘如華氏に贈呈され、活動報告がありました。大会旗の引き継ぎが行われ、最後に福川理事長から有松まちづくりの会、名古屋市長、学生スタッフの皆さんに謝辞を述べられ閉会しました。(記事・写真：宮本哲松見正)



熊川宿参加者

# 熊川いっぷく時代村

と き：平成29年  
**10月1日**

ところ：鯖街道 熊川宿  
(福井県三方上中郡若狭町熊川)

主催：熊川区・熊川いっぷく時代村実行委員会  
共催：若狭町 協力：立命館大学  
協賛：熊川宿観光組合・商工会熊川支部  
後援：福井新聞社・NHK福井放送局・FBC・福井テレビ・FM FUKUI・チャンネルO・MMネット  
司会：曾我廻家 福輔

秋晴れの好天に恵まれ、多くのお客様にご来場いただき、大盛況のうちに無事終了しました。



ミニ演奏会では軽快なリズムにノリノリ。近隣のゆるキャラが勢揃いし、はびりゅうの登場に子どもたちが大喜び。



## オープニング



## 賑わう町並み

上空から見る午前中の様子。お昼頃は来場者でいっぱい！バザーやフードコートは、特産品や秋の味覚を求めて大賑わいでした。



## ブリキの金魚レース

前川を利用して行うブリキの金魚レースとニジマスつかみどり。毎年絶大な人気を誇る時代村の名物イベントは今年も健在。



## 初登場 大道芸コマ回し

人力車と駕籠屋の岡崎屋さんは今年もパワー全開で街道を疾走。コマ回しは初登場！似顔絵&筆遊びとガラス工芸は昨年から。江戸鉛細工は毎年根強い人気を呼んでいます。



## 似顔絵&筆遊び



## 人力車&駕籠屋



## ガラス工芸体験



## ゆるキャラと山車をひこごう

子どもたちが奏でる祭囃子にのせてみんなで山車をひきました。



## 立命館大学サークル和太鼓ドン

演奏しながら街道を練り歩き。みなぎるパワー、あふれる笑顔に元気をもらいました。



## 立命館大学サークル出前ちんどん

子ども語り部は5ヶ所に分かれて発表。長操あめも即完売。射的&縁日、音遊び体験も行われ、いにしへの宿場町を演出しました。



## 初登場 よそこい&はびねすダンス



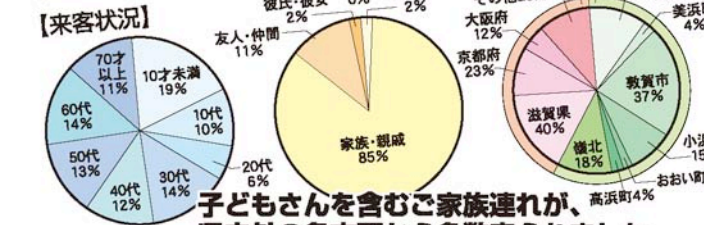
## 初登場 エアライダー

子どもたちに超人気。第2会場は特設ステージ、フードコート、いっぷく処が設けられました。スタンプラリー&アンケートも予想を大きく上回る応募がありました。

### 来場者アンケートによる 人気イベントランキング トップ3

第1位：ブリキの金魚レース  
第2位：スタンプラリー&アンケート  
第3位：自然や町並み

次いで、ゆるキャラと山車をひこごう、祭りの雰囲気、立命館大学サークルが上位の人気でした。



子どもさんを含むご家族連れが、県内外の各方面から多数来られました。



7/25

## 若狭町伝建地区保存審議会

(若狭町・まちづくり委員会)

教育委員会の諮問に応じ、保存地区の建物の修理・修景等に関する重要事項について現地を確認し、旧逸見勘兵衛家で審議を行いました。具体的には、家屋の損壊や修理対象物件の調査で、改修工事を施工する際の留意事項等について先生方から指導をいただきました。



7/23

## 熊川区自主防災デー

(熊川区・熊川区自主防災会)

地震による火災発生↓近隣火災通報システム作動↓火元確認・消防通報↓初期消火↓区民の安否確認↓被害状況と安否報告↓行政への報告を一連の流れで行いました。区民らは、街かど消火栓、煙体験、初期消火訓練、点検を兼ねた小型ポンプの操法などを体験しました。



7/14

## 若狭町から街道整備の視察

(まちづくり委員会対応)

友好交流協定を締結している鳥取県若狭町から、行政と地域の代表の皆様が、伝建地区内の道路舗装整備を中心に視察にお見えになりました。自然環境が似ている熊川宿の消雪装置やカラード舗装などを視察いただくとともに、積雪時の対応などについて意見交換しました。



8/14

## 街かど陶の灯り展 H29

(熊川宿街かど陶の灯り展実行委員会)

上ノ町から下ノ町まで全域に陶器の灯りが並びました。作品は、熊川地区の住民や子どもたち、陶芸教室どころんこ会の会員らが穴あけ作業したものを陶芸家の亀井浩氏が窯で焼いて仕上げます。14日の夜は家族連れなどが散策、15日はあいにくの雨模様で中止となりました。



8/4

## 高岡市から防災研修対応

(熊川区・まちづくり委員会)

富山県高岡市福岡町地域内53自治会連合会の皆様が、視察研修されました。熊川宿まちづくりの取組みや自主防災活動の説明を行い、質疑応答では、日々のちよつとした活動が住民コミュニティを深め、色々な取組みの活性化が図られていることなどを報告しました。



7/30

## 社会奉仕・ケイトウの苗配布

(熊川区・まちづくり委員会)

区民総出で空き地の草刈り、前川の土砂上げや清掃作業を行いました。福井県総合グリーンセンターの「クリーンアップ&フラワー大作戦」で受領したケイトウ種まきセットの苗約400本を全戸に配布、プランターなどに植えていただき、後日、きれいに咲いていました。



9/9

## 福井ふるさとカサポルト講座

(福井ライフアカデミー主催)

県内各地から地域づくりに関心のある方々が来られました。地域の問題解決や活性化を目指して主体的に取組む人材の発掘・育成という組織づくりをテーマに、宮本会長らが対応しました。その中で、熊川区の組織や熊川いっぴく時代村での住民の参画と取組みについて説明しました。



8/31

## 八大神社の八朔祭へ

(まちづくり委員会)

京都一乗寺八大神社の八朔祭(お千度)と鉄扇首頭の奉納に参加しました。細かい手の振り方などを習い、踊り手さんの世代交代も進んでいて継承面でも参考になりました。途中、滋賀県高島市今津町椋川の都市農村交流拠点施設「おつきん椋川交流館」の見学と日吉神社を参拝しました。



8/15

## 納涼盆踊り

(熊川区・伝統芸能保存会ほか)

この日は雨予報に備え、熊川児童館内で行われました。帰省中の家族や区民が多く集まり、軒先では女性の会の焼そば、自衛消防団の焼き鳥、ビール、かき氷、子ども向け当て物などで賑わいました。終盤は、てっせん踊り、熊川音頭を踊って、お楽しみ抽選会でお開きとなりました。



10/8

### 空き家で音楽イベント

(日本遺産熊川宿空き家活用プロジェクト)

(財)地域活性化センターの頑張る地域応援事業の助成を受けて、地域おこし協力隊の阪野真人氏の企画で行われました。菱屋さんの倉庫を会場に、屋台によるドリンクのおもてなしと亀工房の前澤夫妻によるハンマー・ダルシマーという打楽器とギター演奏に聞き入りました。



10/5

### 文化庁調査官を囲む会

(熊川宿まちづくり委員会)

老朽化しても一部は原形をとどめさせ修理前の状況は後世にも分かるような修理を進める事などをご指導いただきました。囲む会では、全国各地の文化財被害に関する講演をお聞きし、住民が防災に対して高い意識を持って取組むようアドバイスをいただきました。



9/16

### 若狭町歴史環境講座

(若狭町)

日本ナショナルトラストの熊川調査に関わり、熊川宿のまちづくりに貢献された米山淳一氏の講演をお聞きしました。全国各地でその土地固有の歴史文化・自然等の地域遺産を保存・活用するまちづくりの具体例を話され、地域が持っている資源を活かすまちづくりの姿を紹介されました。

国出身岐阜市在住の李さんから、濟州オルレについて、高島市の村田さんからは、高島トレイルについてそれぞれ事例発表があり、質疑応答では、運営方法や地元の人々との関わり方、今後の展望についてお聞きしました。若狭町や熊川宿活性化のヒント満載の2日間でした。



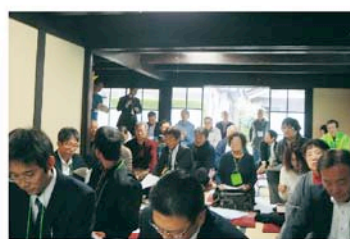
11/25  
26

### 地域おこし協力隊研修会

(熊川区・まちづくり委員会)

初日の基調講演では、(株)デキタの時岡壮太氏が、それぞれの地域で取組まれている活動を講演されました。また、4月に熊川宿でオープン予定の菱屋街道シェアオフィス(<http://hishiyawakasa.com>)の取組みやこれからの仕事づくりの考え方などをお聞きしました。

事例報告では、鯖江市の西馬さん、南越前町の山岸さん、若狭町の阪野さんがそれぞれ、地域のニーズを把握し、その魅力や住民とのコミュニティを活性化しながら取組んでいる活動を報告されました。2日目のフォーラムでは、韓



10/29

### 福井ふるさと茶屋トーク

(熊川区・まちづくり委員会)

小浜市遠敷の「清右衛門」で「遠敷丹後街道まちなみ保存推進会」など、県下で活動されている団体が集まりました。地域の特徴を活かすと共に、高齢者に活躍の場を提供しながら、農産物や加工品販売など、ふるさと茶屋を有効に活用し工夫した取組みが紹介されました。



12/28

### 年末夜回り警戒

(熊川区・上中消防団ほか)

年末恒例の夜回り警戒が行われ、熊川区民や消防団員が上ノ町と下ノ町の端からそれぞれ「火の用心」を呼びかけ、熊川児童館へ向かいました。集結した区民らは、森下町長や原田町議会議長ご臨席のもと、上中消防団の年末特別警戒出発式に参列し、平穏な年越しを誓いました。



12/17

### 今庄宿へ地域づくり部会

(福井県地域づくりネットワーク協議会)

今庄駅に集合して、南越前町の概要を聞きながら旧旅館若狭屋さんに到着、今庄旅館塾さんから活動発表がありました。古民家レストランで昼食後、地域おこし協力隊 門田さんの活動発表があり、その後のグループ討論では、「楽しく、無理なく、生活に関連する内容を、広く参加してもらえ活動を行う」などと学びました。



11/28

### 高島市へまちづくり研修会

(鯖街道まちづくり連絡協議会)

文化庁講演で佐藤氏による日本遺産に認定された地域が抱えている課題と取組みモデルについての説明と、優良な取組み事例の紹介、日本遺産による地域の活性化・観光振興の推進について研修し、重要な文化的景観「針江 霜降の水辺景観」の川端を視察しました。